

[出張報告書]

さきがけ「物質と光作用」筒井領域第6回領域会議(5.14~5.16、別府杉乃井ホテル)に参加して

さきがけ「次世代デバイス」研究総括 佐藤勝昭



Hana 館 7階の部屋から見た別府湾風景

さきがけ領域間交流事業として、5月14日~5月16日に別府杉乃井ホテルで開催された筒井領域第6回領域会議に次世代デバイス領域の2人の研究者(安田研究者、寒川研究者)とともに参加した。風光明媚な別府の中でも随一といわれる杉乃井ホテルでの開催であった。このホテルは別府八湯の1つ観海寺温泉にあり、大分空港からやや遠く交通手段が限られており、別府市街地からも離れているので、缶詰での領域会議向きであった。



杉乃井ホテル遠望



観海寺温泉観海寺橋

「物質と光作用」領域は、既に昨年度3期生の公募が終了したため、今回の参加者は、佐藤領域からの参加者を含め総勢47名という大所帯であった。我が領域も今秋以降の領域会議では3期生を迎えるため、同様の大人数になると予想されるので、その運営方法は、大変参考になった。

発表形式は、2, 3期生は oral、1期生は poster with short talks であった。人数が多いため、ロの字形式ではなくスクール形式の机配置であった。Oral では1人30分(質疑含む)の時間がアサインされており、十分な討議が行われた。興味深かったのは、講演を終えた研究者が座長として

次の発表の紹介を行うという形をとっており、アドバイザーが座長を務める我が領域の進め方と大いに違っていた。質疑は、アドバイザーを中心に、研究者同士のディスカッションも盛んであった。

初日は14時からスタート、6件の講演が行われた。懇親会は筒井先生の紫綬褒章受章のお祝いを兼ねて行われ、歓びを分かち合った。臼井主幹から昔の思い出も含め含蓄のある祝辞があった。懇親会は、2次会、3次会までセットされており、いたれりつくせりであった。棚湯という大浴場の露天風呂にて、寝そべて満天の星空を眺めながらの入浴は最高であった。

第2日の午前中の最初はアドバイザーの菊池裕嗣九大教授による特別講演であった。菊池先生は、さきがけ研究経験者で、液晶の高速スイッチングをめざす研究を進めるなかブルー相とよ



ホテル 12F から別府市街を望む
(塔は Global Tower)

ばれる準安定相を室温で安定的に発現することに成功、構造の解析を進め、最終的には現在主流の **In-plane switching** をしのぐ高速応答を得るに到った経緯をユーモアたっぷりの語り口で述べ感銘を与えた。折角の世界的な発明が日本企業からは評価されず、韓国で先に実用化されたことにショックを受けた。ついで私から、佐藤領域の研究目標、研究実態、研究成果などについて簡単に紹介した。このあと、安田研究者が有機トランジスタの研究について、寒川研究者が窒化物基板作製の研究について報告した。安田研究者の研究内容は筒井領域の研究内容に近いものがあり、多くの質疑が行われた。寒川研究者の研究は無機の結晶成長であったが、最終目的である光インタコネクションについての質問が目立った。

この日は、このほか、午前中および午後後半に各 4 件の **Oral** 講演、午後前半に 1 期生によるポスター発表が行われた。1 期生は、最終段階に向け成果がでてきている印象であった。夜は、市内の飲食店において海鮮料理に舌鼓を打った。

第 3 日は、午前中、6 件の **Oral** 講演があった。

全体を見渡して、筒井領域のカバーする範囲は、佐藤領域より遙かに広がった。中には、錯イオン系における光誘起の構造変化や磁性・光物性変化など、私自身の研究テーマに近い研究が多く、議論に加わることができて楽しかった。一方、佐藤領域の研究者は戦略目標に沿って出口イメージを明確に意識した研究を行っているのに対し、研究者の好奇心に忠実に基礎を固める研究が多かったように思う。これは、筒井研究総括の「個々のテーマに介入せず、のびのびとやらせる」姿勢によるものと感じた。



観海寺温泉に向かう道から高崎山
方面を望む

閉会の辞で、筒井先生は、来年の 1 月頃さきがけ 3 領域の合同報告会をやること、今秋から研究報告書に向けて研究成果のまとめ方について打ち合わせるため、第 1 期生に対するサイトビジットを行う意向であることを示された。この点ではしっかりとしたマネジメントがなされているという印象であった。

今後とも、領域間交流を進め、情報を共有したいと考えている。このような機会をいただいた筒井研究総括をはじめ、お世話いただいた太田参事、三村事務員に感謝する。